

法学概論

【Introduction to Jurisprudence】

担当責任者 非常勤講師 清水 裕一郎

ねらい

「法」に関する基本的な考え方や仕組みを学んだ上で、特に日常生活や医療の現場における具体的な事例を通じて、法学的思考の基礎を修得する。

学修目標

1. 社会や医療の現場において法が果たしている役割を理解し、説明することができる。(I -2, I -3, IV-7)
2. 日常生活や医療の現場において生ずる基本的な問題を、法に基づいて分析し、解決を試みることができる。(I -2, I -3, VI-2)
3. 法や社会に関する情報を自ら収集し、日常生活や医療の現場において適切に活用することができる。(V-4, VII-2)
4. 法や社会に対する関心を生涯にわたって持ち続けることができる。(I -4, I -5)

事前事後学習の方法

1. インターネット、テレビの報道番組、新聞等を活用して、社会で日々起こっている出来事を把握しておくこと。
2. 授業後は配付資料やメモ等を見直して、毎回の講義内容を復習すること。

成績評価方法・基準

学期末のレポートで成績を評価し、60点以上を合格とする。

○教科書

特に指定しない。

○参考書

特に指定しない。

適宜、資料を配付する。

講義:2201講義室

年月日	曜日	時限	授 業 項 目 (内 容)	コアカリ項目				担 当 者
				第1層	第2層	第3層	第4層	
R7.4.8	火	5・6	ガイダンス、我が国の法体系					清水 裕一郎(学外)
4.15	火	5・6	憲法とは何か?					清水 裕一郎(学外)
4.22	火	5・6	日常生活と法(1)—契約					清水 裕一郎(学外)
5.13	火	5・6	日常生活と法(2)—親族と相続					清水 裕一郎(学外)
5.20	火	5・6	医療行為と法(1)—医療過誤における法的責任					清水 裕一郎(学外)
5.27	火	5・6	医療行為と法(2)—医療過誤が問題となった事例					清水 裕一郎(学外)
6.3	火	5・6	遺骨に対する権利、まとめ					清水 裕一郎(学外)